

### Abstract

本研究では自伝的記憶を検索及び保持する際の姿勢の congruent 条件について、大学生と高齢者で調べた。記銘時と同じ (congruent) 姿勢で検索すると、記銘時と異なる (incongruent) 姿勢で検索する場合より迅速に想起でき、2 週間後の自由再生課題においても成績が良かった。この congruent 条件による効果は弱年齢群・高年齢群共に見られたが、congruent 条件での自由再生課題については、弱年齢群は高年齢群より成績が高かった。この論文ではこれらの結果を考えていく。

### Introduction

#### 研究の目的

Riskind (1983)の研究を踏まえて、姿勢の congruent 条件による効果を検証する。(先行研究追求型)  
具体的には

- 1) 記憶内容に適合した姿勢で、congruent 条件による効果が見られるか。
- 2) 予期せぬ遅延再生課題においても congruent 条件による効果が見られるか。
- 3) congruent 条件は、弱年齢群と高年齢群に同様の効果をもたらすのか。 を検証する。

#### 研究の背景(研究史、理論)

- ・ 文脈依存効果 …記銘時と検索時の文脈が一致している方が再生成績がよい。
- ・ 状況依存効果 …記銘時と検索時の環境が一致している方が再生成績がよい。  
→記銘時と検索時の状況や刺激が類似しているほうが再生成績がよい。

(Riskind,1983; Smith, 1979).

⇒検索成績は符号化特定性によって説明できる。

これらより、記憶検索には付随的な意味及び motor の作用が重要

↑ 認識作用を、刺激や出来事に関する記憶を認識装置の中に貯蔵している sensorimotor environment の不可欠な部分だとする考えに一致する。

刺激や事象に関する記憶は、事象処理に含まれている認識経路及び運動経路に貯蔵されている。

(Barsalou, Niedenthal, Barbey, & Ruppert, 2003; Damasio, 1999; Glenberg, 1997)

(Damasio, 1999)

↓

運動にもとづいた記憶は想起されやすいはず

(e.g., Engelkamp & Zimmer, 1997)

↓

↓

- ・自伝的記憶の想起では、過去の事象に類似した視覚的、運動感覚的、精神的、感情的側面を経験するという身体シミュレーションが重要になる。(Wilson, 2002)
- ・言語刺激と首の動きが一致すると、その場でも時間がたっても記憶課題の成績がよい。  
(Wells and Petty , 1980) , (Forster & Strack, 1996)

=身体性認識の適合性を証明。

=経験の記憶痕跡には、その経験に不可欠だった身体姿勢も含まれることを示唆。

↓

刺激内容に一致する姿勢によって思い出すべき記憶に関する情報が活性化され、記憶の処理や想起が促進されると考えられる。

(身体の状態が同じであれば、認識課題においても情報リソースが少なくてもすむから)  
(Barsalou et al., 2003).

↓

何らかを経験した時にある姿勢をとったなら、その姿勢をとった場合のほうが別の姿勢の場合より、その経験を検索しやすいはず。(=congruent条件による効果)

手がかり再生課題では若者にも高齢者にも符号化特定効果が見られるとわかっていることから (Puglisi, Park, Smith, & Dudley, 1988), 若者も高齢者も符号化特定性の利益を得ている。

↓

しかしながら高齢者はエピソード記憶が欠落しやすいこと(Zacks, Hasher, & Li, 2000)や忘却のスピードが早い(particularly for longer time delays; Wheeler, 2000) ことを鑑みると、高齢者には若者ほど congruent条件による効果が見られないのではないかと。

## 仮説

高齢者でも若者でも、記銘時と一致した身体の状態のときのほうが一致しない状態のときより想起しやすく、反応時間の減少など(=congruent条件による効果)が見られるはずである。もし長期的な効果が身体姿勢によるものであれば、自由想起課題において年齢に関係なくcongruent条件による効果が見られるはずである。

## WORDS

### ●embodied cognition: 運動を介したものの理解。

認知過程は周囲の環境との身体的な関わりに深く根ざしたものである。身体化認知。  
(Wilson,M.2002)

〈参考: Margaret Wilson "Six views of embodied cognition" Psychonomic Bulletin & Review volume9, number4. p.625-636〉

### ●autobiographical memory : 自伝的記憶

人が自分の生涯を振り返って再現する個人的な記憶のこと。自伝的記憶は強い感情や個人的な意味を含んでいて、identityと密接に関係する。

### ●encoding specificity:符号化特定性

(記憶対象としての) ある項目が符号化される時、項目それ自体だけでなく、多くの付随した文脈情報も同時に符号化され、検索時には手がかりとして利用されるとした原理。(Thompson,D.M. & Tulving,E. 1970) 〈参考: 心理学辞典(有斐閣、1999)〉

### ●memory trace ; 記憶痕跡

記憶情報の貯蔵によって生じると仮定されている脳内の化学変化。

### ●demand characteristic:要求特性

実験場面において、実験者と被験者の意図的・非意図的な相互作用の結果もたらされる人為的バイアスの一つ。オーン(Orne,M.T.1962)によれば、実験事態におかれた被験者は実験者の指示に忠実に従うだけのロボットではなく、さまざまな手がかりを介して実験の真の目的を知ろうとし、そうした推測に基づいて反応(行動)する、ということである。オーンは、被験者が判断する材料となるものを要求特性と命名したうえで、実験状況でそうしたものを完全に排除するのは困難であると主張した。

〈参考: 心理学辞典(有斐閣、1999)〉